

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

September 3, 2021

欧州中央銀行 (ECB) 理事会を警戒

- ◆ドル円、米連邦公開市場委員会 (FOMC) に向けた地区連銀経済報告に注目
- ◆米 8 月生産者物価指数や日本の 4-6 月期国内総生産(GDP)改定値にも注目
- ◆ユーロドル、欧州中央銀行 (ECB) 理事会の資産購入減額協議の可能性に要警戒

予想レンジ

ドル円 107.00-112.00 円
ユーロドル 1.1500-1.2000 ドル

9 月 6 日週の展望

ドル円は、21-22 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) に向けてブラックアウト期間 (※米連邦準備理事会高官は金融政策に関して発言できない期間) に入ることから、当局からの発言はあまり期待できない。地区連銀経済報告に注目する展開となりそうだ。地区連銀経済報告で米国の景況感改善やインフレ率上昇への警戒感を示していた場合は、年内のテーパリング (資産購入の段階的縮小) 開始観測が高まることになる。逆に、デルタ株の感染拡大への警戒感が示され、インフレ高進の影響が軽視されていた場合は、テーパリング開始が先送りされる可能性が高まるだろう。

ドル買い材料は、米国の雇用情勢の改善傾向が高まった場合や、米連邦準備理事会 (FRB) による年内のテーパリング開始観測が強くなった場合だろう。また、協議が続いているバイデン政権のインフラ投資法案の行方や、新型コロナウイルスの感染状況が改善された場合に反応しそうだ。一方、ドル売り材料としては、新型コロナウイルスのデルタ株の感染再拡大への警戒感が強まった場合や、米中対立が表面化してきた局面だろう。また、アフガニスタン情勢を巡る地政学リスクも引き続き無視できない。更には、米連邦債務上限の引き上げ協議が難航する可能性なども挙げられる。経済指標では、8 日に発表される日本の 4-6 月期実質国内総生産 (GDP) の改定値に注目している。非常事態宣言を受けた下方修正の可能性やマイナス成長に転落する可能性に警戒している。また、9 日に発表される中国の 8 月消費者・生産者物価指数では、中国の景況感減速懸念を受けた物価指数の低迷に要警戒となる。

ユーロドルは、9 日に開催される欧州中央銀行 (ECB) 理事会で資産購入の減額が協議される可能性に警戒している。レーン ECB 専務理事兼主任エコノミストは、「米金融当局のテーパリングの余波が市場に及んだ場合に備え、ECB は対応を準備している」と述べた。ビルロワドガロー・フランス中銀総裁やホルツマン・オーストリア中銀総裁、クノット・オランダ中銀総裁、バイトマン独連銀総裁なども「パンデミック緊急購入プログラム (PEPP) は段階的に縮小すべき」との見解を表明していることから注意が必要だろう。減額が協議されなかった場合は、ラガルド ECB 総裁の理事会後の定例記者会見が注目となる。経済指標では、悪化傾向にある 9 月 ZEW 景況指数のネガティブサプライズに要警戒か。

8 月 30 日週の回顧

ドル円は、109.59 円から 110.42 円まで上昇した。米国 8 月の雇用統計の改善期待や 9 月 FOMC でのテーパリング開始協議、公表観測を受けて、米 10 年債利回りが 1.33% 台まで上昇したことを受けた動き。ユーロドルは、9 日の ECB 理事会での PEPP 早期終了協議への思惑から、1.1783 ドルから 1.1884 ドルまで上昇した。ユーロ円も、リスク選好地合いが強まるなか、129.46 円から 130.64 円まで上昇した。(了)